

令和元年度に係る部局評価

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. 文学部・文学研究科 | 21. 微生物病研究所 |
| 2. 人間科学部・人間科学研究科 | 22. 産業科学研究所 |
| 3. 外国語学部 | 23. 蛋白質研究所 |
| 4. 法学部・法学研究科 | 24. 社会経済研究所 |
| 5. 経済学部・経済学研究科 | 25. 接合科学研究所 |
| 6. 理学部・理学研究科 | 26. レーザー科学研究所 |
| 7. 医学部・医学系研究科 | 27. 低温センター |
| 8. 医学部（保健学科）・医学系研究科（保健学専攻） | 28. 超高圧電子顕微鏡センター |
| 9. 歯学部・歯学研究科 | 29. 環境安全研究管理センター |
| 10. 薬学部・薬学研究科 | 30. 国際教育交流センター |
| 11. 工学部・工学研究科 | 31. 生物工学国際交流センター |
| 12. 基礎工学部・基礎工学研究科 | 32. 太陽エネルギー化学研究センター |
| 13. 言語文化研究科 | 33. 国際医工情報センター |
| 14. 国際公共政策研究科 | 34. 数理・データ科学教育研究センター |
| 15. 情報科学研究科 | 35. 日本語日本文化教育センター |
| 16. 生命機能研究科 | 36. ナノサイエンスデザイン教育研究センター |
| 17. 高等司法研究科 | 37. 知的基盤総合センター |
| 18. 連合小児発達学研究科 | 38. 核物理研究センター |
| 19. 医学部附属病院 | 39. サイバーメディアセンター |
| 20. 歯学部附属病院 | |

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:文学部・文学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。 文化庁補助事業による大型資金を新規に獲得して連続レクチャー、見学会などの事業を主催し、国内外のミュージアムにおける文化事業と連携協力するなど、社会に貢献したことが評価できる。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。 大学院等高度副プログラム「グローバル・ジャパン・スタディーズ」を言語文化研究会・国際公共政策研究科と連携した上で、25科目開講されるまで拡充したこと、令和2年度から外国人の特任助教を雇用し英語科目を拡充する体制を構築した点が評価できる。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。 人文系教育組織構想のあり方について、言語文化研究科とともに検討を重ねたこと、また女性教員比率向上の取組みとして令和2年4月1日付新規9名採用の人事をすべて女性限定公募で行ったことが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)について、数値目標を達成し前年度実績から大きく向上していることが評価できる。 常勤研究者に占める女性研究者の割合と外国籍教員の割合について、数値目標を達成し前年度実績から大きく向上していることが評価できる。</p>

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:人間科学部・人間科学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		学際性、実践性、国際性の三本柱に基づき、教育方法の改善充実に取り組み、成果が上がっている。 特に、教員採用試験対策に関するセミナーの実施や自主サークルの運営支援に組み込み、参加した31名の学生のうち9割強が教員として採用されたほか、公認心理士プログラムを充実させて第2回公認心理士試験に10名の合格者を出すなど、高度専門職業人の養成に貢献している点が評価できる。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		教員への情報提供等の取組を進め、科研費採択金額が大幅に伸び、研究業績も向上するなど成果が上がっている。 また、SSI基幹プロジェクト3つに加わり、その1つ「ITを用いた防災・見守り・観光に関する仕組みづくりの共同研究」では、独立電源装置を用いた拠点間長距離無線伝送実験を行い、国内の主要メディアで取り上げられた。社会的にも意義のある共同研究を文系研究科が一般企業と進めていることは高く評価できる。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		附属未来共創センターとの連携で、新規8件の大阪大学オムニサイト協定を締結した。その1つNPOおおさかこども多文化センターとともに実施し、メディアにも取り上げられた外国人児童・生徒のための日本語の遠隔指導に関する実証実験の社会的意義は大きく、今後も社会貢献が期待できる。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		大阪大学ユネスコチェア主催の国際シンポジウムやワークショップを開催するなど学際的プロジェクトを立ち上げるためのプラットフォームは順調に構築されている。また、海外からの留学生数が前年度比3倍と大幅に増加し、本学の学生を対象に3か月以上の長期滞在支援を新設したことで海外留学者も増加したこと、英語力向上セミナーとしてのTOEIC対策講座の成果が表れている点など、総合的に評価できる。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		子育て中の学生を支援する「子育て・研究両立支援および子育て・学業両立支援」を新設し、子育て中の学生12人に対する経済的支援を行ったこと、クロスアポイント制度を利用して文系部局としては初めて一般企業からの女性の特任准教授(常勤)を採用したことなどが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合について、学部と研究科のいずれも数値目標を達成し前年度実績から大きく向上していることが評価できる。

常勤研究者に占める女性研究者の割合について、数値目標を達成して着実に増加しており、文系部局でも高い比率で、大学全体の比率向上に貢献していることが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:外国語学部

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	S	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。 例年開催の連携協力講座に加え、みのお市民活動センターとの共催によるマンスリー多文化サロンを毎月開催とし、さらに小学生と保護者を対象としたイベントを行うなど、開催回数が昨年度の1.5倍、また参加者数も同様に増加しており、部局の特色を生かした社会貢献を行っていることが評価できる。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

外国人留学生比率について、数値目標を達成し前年度実績から向上していることが評価できる。
 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)について、学生のスコアを把握する取組や英語以外の専攻語の客観的判断基準の検討をしており、今後の成果に期待したい。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:法学部・法学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		国際公共政策学科および高等司法研究科との連携で制度設計した「法曹コース」の令和2年度からの設置が認可されたことは高く評価できる。法学研究科、高等司法研究科、国際公共政策研究科と法学部のシームレスな教育も進められており、今後の発展が期待できる。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		社会科学系5部局の若手・中堅教員による社会科学系共創ワーキンググループを設置して「組織・人事」、「研究」、「教育」に関する検討を行い、具体的な方策を提案を含む報告書を作成したことは、産学共創に資するものとして評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

共同研究・受託研究の受入金額については、実績がないためC評定とした。今後、担当理事と対話をしながら、実績値の向上に向けた方策の検討等に取り組んでいただきたい。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:経済学部・経済学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		第44回交通図書賞ならびに第10回鉄道史学会住田奨励賞を受賞した啓発書の出版、民間企業2社の社外取締役就任、メディアへの情報発信など、本研究科の複数の教員が広く社会に貢献していることが評価できる。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】
 常勤教員の論文数について、数値目標を達成し前年の実績から大きく向上させたことが評価できる。
 競争的資金(科研費等)の獲得件数について、数値目標を達成し前年度から実績を大きく向上させたことが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:理学部・理学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性の高い計画として、新規の国際科学特別(プログラム)(学部)を設置する最終準備として、4回のワーキンググループを開催し、カリキュラム案の作成、教員の配置、入試の準備など具体的な準備を行っており、さらにホームページの開設、JASSO留学フェアでの説明(6ヶ国9都市13回)、海外の高校への訪問(3ヶ国6都市9回)を実施している。当初の想定を超える56名の出願があったことなど、高く評価できる。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		「第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン(マスタープラン2020)」において、「強磁場コラボラトリー:統合された次世代全日本強磁場施設の形成」(計画No.11)が重点大型研究計画として採択されたことが高く評価できる。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		ダブル・ディグリー・プログラム協定を今年度新たに3件締結し、また、同プログラムにおいて新規で1名を受け入れていること、研究科独自の国際インターンシッププログラム(International Summer Program)を実施し、昨年度受入人数(15名)の2倍にあたる30名の受け入れを行ったことが高く評価できる。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 外国大学との国際共同学位プログラム数について、前年度に引き続き、新規に締結したことが高く評価できる。 外国人留学生比率について、数値目標を達成していることに加え、外国人を対象とした国際科学特別入試を新設しており、今後の成果が期待される。 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合について、学部と研究科のいずれも数値目標を達成しており、部局独自の予算でTOEIC受験料の一部補助を行う取組などが評価できる。</p>

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:医学部・医学系研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	SS	令和元年度計画の達成状況が非常に優れている。 発表論文数400本増加したことは高く評価される。また、先導的学際研究の推進による新学術領域での世界最高水準の研究拠点形成において、「医学研究の高度化を支える疫学・統計学・生物情報科学・医療情報学の融合研究—メディカルデータサイエンス研究拠点の形成—」が6年間のプロジェクトとして採択され、研究を開始したことは戦略的・意欲的な計画として評価できる。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。 戦略性の高い取り組みとして、産学連携・クロスイノベーションイニシアティブや、最先端医療イノベーションセンターを活用して産学連携を推進し、共同研究講座数が前年度の24講座から34講座へと大幅に増加している。また、共同研究の受入数も310件から330件、受託研究の受入数も309件から327件、特許の申請件数も136件から150件へと大幅に増加したことが高く評価できる。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。 戦略性の高い取り組みとして、海外研究者によるセミナー実施件数も大幅に増加させたことが高く評価できる。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】
 常勤教員の論文数について、数値目標を達成し前年の実績から大きく向上していることが評価できる。
 共同研究・受託研究の受入金額について、数値目標を達成し前年度実績から大きく向上しており、大学実績に大きく寄与していることが高く評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:医学部・医学系研究科(保健学)

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		国際共同学位プログラムに向けた検討を開始し、協定校からの受験者数、協定校への留学数、協定校からの留学生数の何れも目標を大きく上回っていることが高く評価できる。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		海外の大学・研究機関との国際共同研究が17件(平成30年度6件)と大幅に増加し、それに伴う国際共著論文数も17編と増加している。さらに学内国際共同研究プロジェクトも3件採択されており、目標を大幅に上回っていることが高く評価できる。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		Society5.0に関連した研究を保健学専攻教員5人が推進し、地域自治体(大阪府、吹田市など)と共同研究契約締結9件を結び、うち2件は共同研究費を受けており、何れも目標を上回っており、高く評価できる。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】
 外国大学との国際共同学位プログラム数について、米国カリフォルニア大学パークレー校公衆衛生学部(UCB SPH)と共同学位プログラム設置に関する議論を進めており、今後の成果が期待される。
 常勤教員の論文数について、数値目標を達成し前年の実績から大きく向上していることが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:歯学部・歯学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評価	コメント(評価に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		台北医学大学とのダブルディグリープログラムに加え、チュラロンコン大学とのコラボレーティブディグリープログラムの締結を行ったことが高く評価できる。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		研究費の獲得件数、獲得研究費額とも大幅に増加させていることが評価できる。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		教員の業績を、研究成果を中心とするKPI達成度に基づいて評価し、インセンティブ付与を行う新たな教員評価システムを構築したことが高く評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】
 外国大学との国際共同学位プログラム数について、新規に締結したことが高く評価できる。
 外国人留学生比率について、数値目標を達成し前年度実績から向上しており、部局間学術交流協定の締結を積極的に進めていることが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:薬学部・薬学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	<p>令和元年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>「創薬基盤技術力」、「創薬臨床力」、「社会実装力」を有する人材育成に向けて、新規カリキュラムの編成を行い、1年次生から実施した。推薦入試で合格した学生については、先進研究プレコースを設け、充実した早期体験学習プログラムや自主研究プログラムを提供したことが高く評価できる。</p> <p>また、プルネイのUBD、UTBとのコチュテル・プログラム構築の前段階である部局間学術交流協定及び学生交流協定を締結しており、戦略性の高い計画が遂行されてきている。</p>
【研究】	A	<p>令和元年度計画の達成状況が良好である。</p>
【社会貢献】	A	<p>令和元年度計画の達成状況が良好である。</p>
【グローバル化】	A	<p>令和元年度計画の達成状況が良好である。</p>
【業務運営】	S	<p>令和元年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>戦略的な計画として薬学新全6年制薬学教育改革の実施体制を構築することが掲げられているが、医学系研究科や病院薬剤部との協力体制が構築されていることが評価できる。</p>

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】
 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)について、数値目標を達成し前年度実績から大きく向上していることが評価できる。
 競争的資金(科研費等)の獲得金額について、前年度実績から大きく向上していることが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:工学部・工学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	S	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		高大連携に関するプログラムについて、部局独自のプログラムを含めて計3プログラムを実施・参画(左記参照)し、延べ73研究室の教員が各種プログラムを提供し、多くの意欲ある高校生・高等専門学校生に対して大学レベルの教育研究に触れる機会を提供したことが評価できる。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		バーチャル組織としてのテクノ・アリーナの機動性を活かし、既存の専攻の枠を超えた研究活動を活性化していることが評価できる。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		原子力規制庁との連携協定を締結したこと、共同研究講座を2件、協働研究所を2件、協働ユニット1件を設置し、産学連携を推進したことが高く評価できる。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		多数の戦略的が高く意欲的な取り組みを掲げ、それらに対する積極的な取り組みが見られ、高く評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

外国大学との国際共同学位プログラム数について、前年度に引き続き、新規に締結したことが高く評価できる。
共同研究・受託研究の受入金額について、数値目標を達成し前年度実績から大きく向上していることが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:基礎工学部・基礎工学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	S	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		科学技術英語を国際性涵養科目に分類し、受講者数が前年度(12名)から顕著に増大(123名)したことが評価できる。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		論文数(275→344)、共同研究件数(111→139)を大幅に増加させたこと、共同研究講座を新たに1件設置したことが高く評価できる。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		SEEDSプログラムで応募数が増加し、応募者数を制限するまでに至っていることが高く評価できる。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		基礎工学国際コンソーシアムに、ニュージーランドよりUniversity of Aucklandを新たなメンバーとして招へいたこと、新たに、キングモンクット工科大学トンプリ校工学部(博士前期課程、博士後期課程)、マレーシア科学大学化学工学部(博士後期課程)と大学院DD協定を締結したことが高く評価できる。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		空ポストを非常に有効活用し、教職員の職務環境、国際化、広報を強化する体制をつくっており、高く評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

外国大学との国際共同学位プログラム数について、前年度に引き続き、新規に締結したことが高く評価できる。
 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)について、数値目標を達成し前年度実績から大きく向上しており、大学実績に大きく寄与していることが高く評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:言語文化研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		マルチリンガル教育センターとの連携により、英語教育の新カリキュラムを開始したこと、マルチリンガルエキスパート養成プログラムへの参加者の増加、新たな言語プログラムの開発などが評価できる。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		みのお市民活動センターとの共催によるマンスリー多文化サロンを毎月開催とし、さらに小学生と保護者を対象としたイベントを行うなど、開催回数が昨年度の1.5倍、また参加者数も同様に増加していることに加え、箕面新キャンパスへの足がかりとしての協議等を進めていることが評価できる。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		概算要求事業である「「キャンパスラフー貫型」言語教育によるグローバルプレゼンスの確立」において、学生の自立学習を支援するとともに、日本人学生と留学生との交流を推進する「OUマルチリンガルプラザ」を当初の計画より早く解説するために貢献したことが評価できる。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		箕面新キャンパスの開学に向け、企業等と協力してスマートキャンパスのための準備を着実に進めていることが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 外国人留学生比率について、数値目標を達成し前年度実績からも向上しており、大学実績に大きく寄与していることが評価できる。 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)について、数値目標を達成し前年度実績からも向上しており、学生の外国語力を把握する取組が評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:国際公共政策研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		博士後期課程の入学時期を柔軟化して9月受験、翌4月入学を可能とする入試制度改革を行い令和2年度から実施する体制を整えたことや他大学で説明会を実施するなど、博士後期課程の受験者を増やす取組みが評価できる。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		本研究科初の産学共同研究として、災害時多言語情報提供システムにおける多言語コンテンツの開発を行うLink-ef社との共同研究をスタートさせ、その関連として、危機管理時多言語対応に関する協力協定を泉佐野市と締結しており、今後の進展が期待できる。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

外国大学との国際共同学位プログラム数について、新規に締結したことが高く評価できる。
 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)について、数値目標を達成し前年度実績から向上しており、大学実績に大きく寄与していることが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:情報科学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		平成30年度に補助期間を終了し、事後評価でS評価を得た博士課程リーディングプログラム「ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム」において、24科目を開講し、引き続き優秀な学生の教育を実施していることが評価できる。
【研究】	SS	令和元年度計画の達成状況が非常に優れている。
		大型プロジェクトの推進件数が平成30年度の37件と比較して19%増の44件となり、大幅に増加していること、これにより獲得した研究費は14.9億円に達し、0.6億円増加し、件数、金額とも過去最高を記録したこと、さらには、科学研究費の情報科学分野での2019年度配分額は大阪大学が全国1位となっていることなどが極めて高く評価できる。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		グローバルナレッジパートナーである上海交通大学の電子情報・電気工学科との間で締結したダブルディグリープログラムによって、実際に1名の学生を受け入れた。また、同大学との学術交流協定のもと設けられたマッチングファンドに基づく新規プロジェクトには新たに2件が採択された。さらに、DGISTや台湾師範大学との交流協定に向けて事務職員の派遣も行ったことが高く評価できる。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		今年度から部局独自でURA担当教員を2名配置し、新設した研究戦略企画室を中心に、組織運営体制機能強化経費(2,000万円強)を活用した研究支援の取り組みを行っている。特に若手研究者の育成に重点を置き、ランチセミナー、リトリートの実施により研究者間の交流の促進と活性化を図るとともに、新たな融合研究のスタートアップを支援するプログラムを実施したことが高く評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

常勤教員の論文数について、数値目標を達成し前年の実績から大きく向上していることが評価できる。
若手教員の割合について、数値目標を達成し前年度実績から大きく向上しており、大学実績に寄与していることが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:生命機能研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	S	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		研究科経費で受け入れるRAを令和元年度は1,300万円以上増額措置し、学生の安定な学修環境を提供していることが評価できる。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		科学研究費補助金の実施件数及び総額ともに伸ばし、受託研究費については、数値目標も達成し平成30年度より約2倍の金額を獲得したこと、さらには、特許(日本)の出願件数が平成30年度より3倍に増加したことが高く評価できる。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		公開セミナー等の実施件数が2倍に増加していることが評価できる。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性の高い取り組みとして、新たに国際共同研究促進プログラム(タイプA)(GKP枠)に1件採択されたことが高く評価できる。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 外国人留学生比率について、数値目標を達成し前年度実績から大きく向上しており、理系部局で最も高いことが評価できる。 競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額について、数値目標を達成し前年度実績から向上していることが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:高等司法研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
A	対象外	A

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評価	コメント(評価に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
		早期卒業希望者へのガイダンスやオープンキャンパス時の説明会の充実などにより入学者が84名となり、収容定員充足率が約111%に達した。 他大学法曹コースとの連携については引き続き検討を進められたい。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名: 連合小児発達学研究所

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。 国際共著論文数を目標50に対して60と大幅に向上させていることが高く評価できる。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。 スマートフォン用双方向性睡眠教育アプリを用いた子育て支援と乳幼児睡眠データ収集システムの構築”はNICTの”データ連携・利活用による地域課題解決のための実証型研究開発”に採択され、中間評価でS評価を得ている。また本アプリの社会実装化も進んでいる。自治体からの受託研究費、シンポジウムの参加数など目標を上回る成果をあげており、高く評価できる。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。 受け入れ留学生数が目標を大きく上回っていることが高く評価できる。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】
 常勤研究者に占める女性研究者の割合について、数値目標を達成しており、全学で最も高い割合であることが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:医学部附属病院

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	対象外	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		AMED橋渡し研究戦略的推進プログラム「異分野融合型研究開発推進支援事業」に採択され、その対象シーズとして学内より13件の異分野融合型シーズを学内他研究科等より新たに採択し、支援を開始したことは高く評価される。また積極的なAIの診療現場への導入を図っていることが評価できる。
【社会貢献】	SS	令和元年度計画の達成状況が非常に優れている。
		戦略性の高い取り組みとして、緩和医療センターを開設し、がん緩和ケアチーム、心不全緩和ケアチーム、小児がん緩和ケアチームの3チームで、より質の高いケアが提供できる体制を整備したこと、ハイブリッド手術室を改修し、手術枠の変更を行い、運用を開始したことが高く評価できる。さらに、感染症指定病院ではないが、陰圧装置を装備して、重症のコロナウィルス肺炎の患者を受け入れ、地域医療に貢献したことが極めて高く評価できる。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性の高い目標として、看護師の増員、医療技術職員の増員を行い、医療従事者の負担軽減及び勤務環境改善の取組を推進したことが高く評価できる。また、多様な人材確保に努め、また入院の診療報酬請求額が8.2億の増となったなども、高く評価される。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:歯学部附属病院

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	対象外	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		超高齢社会を担う歯科医療人を育成するため、前年度に開始した学外における臨床実習において、今年度は介護施設や居宅など患者の生活の現場での実習を開拓するなど内容の充実と実習機会の増加を図り、実習に参加した学生数はのべ194名と前年度の65名から大幅に増員させたことが高く評価できる。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		口腔のデジタルデータベースの構築、ITを活用した歯科治療についての展望を議論し、地域連携への出口が明確となったことで、参画する企業からの支援が継続され、異例となるR2年度のプロジェク継続(4年目)が決定し、ナショナルプロジェクト化を目指すこととなったことが評価できる。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		多国籍の患者受け入れを行っている歯学部附属病院として、大阪府の「医療機関における通訳機能等を備えたタブレット端末等の整備事業」に採択され、55言語通訳可能なタブレット端末を導入した。これにより受付や病棟において、これまでの英語中心の患者対応から、英語圏以外の患者対応を可能とし、外国人患者に対してのアメニティ向上の体制を構築したことが高く評価できる。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		医療安全Q&A(携帯型ポケットサイズ)とインシデントレポートニュース総覧に、過去のインシデントレポートや医療安全のポイントをわかりやすく取りまとめ、院内の職員が重要な情報にいつでもアクセスできるようにしたことや、電子カルテ上に保管された検査データの確認漏れを防止するべくアラートシステムを新たに整備したことなどが高く評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:微生物病研究所

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
SS	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	SS	令和元年度計画の達成状況が非常に優れている。 IF10以上の論文数の増加、国際共著論文の割合の増加があり、特にFWCIの大幅な上昇(1.23→1.91)が非常に高く評価できる。 また、日タイ感染症共同研究センター運営にかかる研究プロジェクトJ-GRIDが評価され、来年度第4期への継続が決定したことも評価できる。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。 戦略性の高い取り組みとして、(一財)阪大微生物病研究会、医薬基盤・健康・栄養研究所と共同し、新興感染症の予防と制御に向けた研究開発を行うプラットフォームを形成することとしたこと、ワクチン開発・実用化、病原体感染評価系開発などを中心としたプロジェクトを策定したことが評価できる。また共同研究・受託研究数および受入金額が増加させた(2018年度62件、318,447千円→2019年度71件、329,917千円)ことも評価できる。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。 JSTさくらサイエンスプランに採択され、タイ・スワンクラブ高校から12名の研修生を受け入れた。本プログラムをきっかけに同高校から80名の本学訪問(2020年2月)につながったこと、タイ・バンコク講演会(参加人数81名)に加え、令和元年度はミャンマー・ヤンゴンでも講演会(参加人数66名)を開催したことが高く評価できる。 また、微研独自の奨学金制度である谷口海外奨学生として2名の留学生を受け入れ、短期留学生も積極的に受け入れている。海外での講演会も積極的に実施していることが評価できる。
【業務運営】	SS	令和元年度計画の達成状況が非常に優れている。 COVID-19流行にあたり、微研公式HPに「微生物病研究所からのコロナウイルス情報」として一般向けの解説を公開したこと(アクセス数一日平均2,000以上)、感染症・免疫に関する社会の理解をより促進すべく、本研究所初の試みとして、情報サイト制作プロジェクトを立ち上げたこと、その制作資金をクラウドファンディングにより収集し、200万円以上の寄附金を集めたことなど、時宜にかなった社会貢献のための業務運営を行っていることが極めて高く評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 共同研究・受託研究の受入金額について、数値目標を達成し全学的に見て高い水準にあることが評価できる。 常勤研究者に占める女性研究者の割合について、数値目標を達成し前年度実績から大きく向上していることが評価できる。</p>

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:産業科学研究所

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。 国際連携研究ラボ数が11件で新規に3件増加したことが高く評価できる。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。 「フレキシブル3D協働研究所」を2020年1月に設立し、複数企業(基幹企業:千住金属工業、ダイセル、ヤマト科学;アドバイザー企業:デンソー、パナソニック、トッパン・フォームズ、トヨタ自動車他)が参画する協働研究所を設立したことが評価できる。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。 教授退職に伴う世代交代によるブランクを短縮するため教授定年2年前から分野検討を開始する制度を確立したこと、若手支援制度である第2研究プロジェクトを復活し、活躍する助教を准教授PIとして採用したこと、女性准教授数を一気に3名増加し、4名体制としたこと、2度の教員業績評価を実施したことが高く評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

常勤教員の論文数について、数値目標を達成しており、実績が向上していると認められる。
 共同研究・受託研究の受入金額について、数値目標を達成し前年度実績から大きく向上しており、産研テクノサロン事業などを通じた産業界とのマッチングなどを積極的に行っていることが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:蛋白質研究所

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		大学院生による学会発表は77件、論文発表は22件であり、ともに前年度の数値を大きく上回ったこと、15名の理学研究科博士後期課程留学生を受け入れ、博士課程学生充足率向上に貢献していることなどが高く評価できる。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		教授1名が第37回(2019年度)大阪科学賞を受賞したことが高く評価できる。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		研究所運営の蛋白質構造データベースPDBのダウンロード数が前年度比の184%となり、大幅に増加したこと、新型コロナウイルス関連の情報公開の迅速化し、日英中韓の各言語でHPから発信したことが重要性が高く時宜に合った取り組みとして高く評価できる。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		女性比率向上への取り組み、教員評価の公平性改善への取り組みが高く評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】
 常勤研究者に占める女性研究者の割合について、数値目標を達成して前年度実績から向上しており、一部のポストを女性教員ポストとして運用するなど、計画的な雇用を積極的に行っていることが評価できる。
 若手教員の割合について、数値目標を達成して前年度実績から向上しており、大学実績に寄与していることが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:社会経済研究所

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		部局の教員が提供した授業27科目のうち、英語および英語と日本語の併用で開講した授業は21科目であり、授業の60%を英語で開講するとの目標を大きく上回り78%に達している。社研セミナーやランチタイムセミナーも英語で開催するなど、積極的な取り組みを行っている点も評価できる。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		所員(専任助教以上)一人当たりのSocial Science Citation Indexに収録されている国際学術誌への論文掲載数(過去5年間)と教員一人当たりの被引用回数(他大学(ランキング上位校)の附置研究所より大幅に高い数値であること、また実験施設の稼働率の目標値を大きく上回ったことが高く評価できる。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		ペンシルバニア大学と共同編集する学術誌International Economic Reviewが、日本で編集する経済学系雑誌としては最高レベルを維持していること、49件もの国際共同研究を行っていること、外国人専任講師を2名採用して教員16名のうち5名が外国籍となっているなど、グローバル化に向けた多角的な取り組みが評価できる。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		女性教員を新規に採用して目標値とする女性教員比率を上回ったこと、所内会議を英語で行うなどグローバル化に対応する取り組みを行っていることが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤研究者に占める女性研究者の割合について、数値目標を達成し前年度実績から向上していることが評価できる。 外国籍教員の割合について、数値目標を達成し前年度実績から大きく向上していることが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:接合科学研究所

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性の高い取り組みとして、国際溶接技術者(IWE)コースで、国際的に活躍できる高度溶接専門技術者・管理技術者7名を育成したこと、研究所と日本溶接協会、ハノイ工科大学との三者が「溶接管理技術者資格認定制度」をベトナムで実施するための協定書を締結し、ベトナムで溶接技術者資格(JIS)コースによる高度人材を輩出する準備を整えたことが高く評価できる。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性の高い取り組みとして、従来の日立造船先進溶接技術共同研究部門、大阪富士工業「先進機能性加工」共同研究部門、「高度ジョイント生産システム構築」共同研究部門、に加え、平成30年度に「JFEウエルディング協働研究所」、「先端接合技術共同研究部門」を、平成31年4月1日に「ダイヘン溶接・接合協働研究所」を開設し、2協働研究所、4共同研究部門の体制としたことが高く評価できる。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性の高い取り組みとして、各種アウトリーチ活動、新たな協働研究所の開設などの取り組みが高く評価できる。
【グローバル化】	SS	令和元年度計画の達成状況が非常に優れている。
		多くの学生を海外派遣させるなど、積極的にグローバル化を進めていることに加え、戦略性の高い取り組みとして、学術交流協定5件の新規締結、国際ジョイントラボの新設などアジアを中心とした国際連携を推進する多角的な取り組みが極めて高く評価できる。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		部局独自の外部評価を実施したことが高く評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

外国籍教員の割合について、数値目標を達成し前年度実績から向上していることが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:レーザー科学研究所

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		フィリピン大とMOAを締結し、新たな枠組みへ向け活動を拡張し、研究サミットを開催したこと、「フォトニクスユニット(名称変更)」の幹事部局としてオナー大学院プログラムを立ち上げ、令和2年度からの大学院生受け入れ開始体制を整えたことが評価できる。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性の高い取り組みとして、2019年の論文の産学共著割合が15.3%が増加したことが評価できる。 また、パワーレーザー・IFE・光エレクトロニクス(延べ174社参加)の3つのフォーラムによって、所内の研究活動全体を広くカバーできる産学連携体制と、所内に整備した「レーザーオープンイノベーションプラットフォーム」を活用し、企業との共同研究立ち上げの議論を本格化させた。以上は意欲的な計画として評価できる。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		レーザーオープンイノベーションプラットフォーム」を活用し、共同研究部門は外国資本企業2社を加え計4部門となったことは意欲的な計画として評価できる。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性の高い取り組みとして、海外機関との学術協定の締結、5つの海外連携オフィスを活用した海外連携などの取り組みが高く評価できる。また日米政府間で交わされた「高エネルギー密度科学」に関する科学技術協力協定に沿って、委員会設立に向けた具体的な準備を進めたことが評価できる。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

若手教員の割合について、数値目標を達成し前年度実績から大きく向上していることが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:低温センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	対象外	A

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		ヘリウムの需給バランスが崩れる中、安定した学内への液体ヘリウムの提供を行うとともに、新規事業として「外部者向けヘリウム液化事業」を行うために体制を整備したことは評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:超高压電子顕微鏡センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	対象外	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		材料科学への応用研究について、国際共著論文1編を含む論文発表20件や、国際会議招待講演5件と受賞2件の成果を得ており、評価できる。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		学内外で多くの共同研究を行い研究成果を上げていること、複数の企業と共同研究を実施し、人材育成にも貢献したことが評価できる。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:環境安全研究管理センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	対象外	A

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		大阪大学薬品管理支援システムを教育研究機関として我が国初の外部クラウド化へ更新し、リスク回避やハードウェアの維持・管理等の解消など、運営の合理化が図られ、さらに、情報セキュリティの強化が達成されたことが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:国際教育交流センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
A	対象外	A

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評価	コメント(評価に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。 自律学習支援のためのOUMルチリンガルプラザ開設に向けた具体的な準備作業を行ったことが認められる。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:生物工学国際交流センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	対象外	A

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		スーパーグローバル大学創成支援授業の目標達成に向け、本学大学院生(24名)の派遣、留学生(41名)の受け入れなど、知の交流に貢献していることが評価できる。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:太陽エネルギー化学研究センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	対象外	A

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		昨年度よりも多くの外部資金を獲得するとともに、次世代二次電池の研究や新規な樹脂光触媒の開発などでトップジャーナルに論文が掲載されたことが評価できる。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:国際医工情報センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	対象外	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		メディカルデバイスデザインコースに87名の社会人を受け入れており、複数の社会人プログラムの充実により多数の受講生を受け入れていることが評価できる。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		MEIプロフェSSIONALコース受講料等収入も約2,267万円となり増加しており、また、MEIグラントの支援件数も12件1,300万円となっており、エコシステム活動に関する好循環が評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:数理・データ科学教育研究センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
A	対象外	A

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評価	コメント(評価に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		数理・データアクティブラーニングプランとして開設した学部向け科目60科目に、履修登録者3,450名・単位認定者2,945名を記録し、学生の高い関心を得たことが評価できる。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:日本語日本文化教育センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	対象外	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		教育関係共同利用拠点として、他大学との連携のもと多角的な取組みを行っていることが認められる。国内他大学所属の留学生や日本語教育を専攻する学部生・大学院生に向けた教育支援の一環として、TV会議システム等を利用した遠隔教育に積極的に取組み、授業配信を2大学と計6回実施したことなどが評価できる。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		本学ASEANキャンパスのジョイントキャンパスが設置され、ダブルディグリープログラムを運営しているタイ国マヒドン大学の学生を対象として積極的に日本語授業を提供するなど、同校との交流を進めていること、同キャンパスにて「第8回日本語・日本文化国際フォーラム」を成功させたことなどが評価できる。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:ナノサイエンスデザイン教育研究センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	対象外	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		文部科学省の職業実践力育成プログラム(BP)として新たな指定を受け、またカリキュラムの改訂を行いつつ引き続き社会人教育を続けていること、計算機科学に関する共同研究部門において多くの人材育成を行ったことが評価できる。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		ASEANキャンパスにおけるワークショップの開催や、積極的に国際ジョイントラボの協定締結を行ったことが評価できる。
【業務運営】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:知的基盤総合センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	対象外	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		各部局からの産学連携に関する相談に応じ、阪大発ベンチャーを支援し、大学関係者と企業との協定作成に貢献して、本学の研究開発エコシステムの創出に貢献したこと、また大阪府下の関係諸機関と連携し、地域における知財創造教育を推進するなど、知的財産に関する最新の動向を学内外に発信していることが評価できる。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		フランスのストラスブール大学国際知的財産研究所(CEIPI)と学術交流協定を取りまとめ、2020年4月1日締結に至ったことが評価できる。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		知的基盤総合センターと大阪発明協会との連携を智適塾がサポートする形で、智適塾インターン弁理士が大阪発明協会にて研修講師を担当することを通じて、智適塾でのインターン養成の成果を拡大していく先鞭をつけたことが評価できる。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:核物理研究センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		第2回日本オープンイノベーション大賞(日本学術会議会長賞)を受賞したことが高く評価できる。 また、RCNPが幹事機関を務める産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム OPERAにかかる一般社団法人「量子アプリ社会実装コンソーシアム」が設立され、半導体ソフトウェア対策とアルファ線核医学治療法開発を進展させた点が評価できる。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		国際研究集会・国際スクール等の実施が高く評価できる。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		クロスアポイントメント制度により、教授クラス1名、准教授3名(うち女性3名)及び海外より4名の著名な研究者を受け入れたことが高く評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 競争的資金(科研費等)の獲得金額について、数値目標を達成しており評価できる。 常勤研究者に占める女性研究者の割合について、クロス・アポイントメント制度を積極的に活用しているが、今後はさらに積極的な取組を期待したい。

令和元年度実績に係る部局評価書

部局名:サイバーメディアセンター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1】部局評価計画に対する達成状況評価

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		各種教育学習支援情報システムの安定したサービス提供とセキュリティ強化のために、講義映像収録配信サービスのクラウド化に引き続いて、授業支援システムのデータセンターでの運用を実施し、その後クラウドサービスへの移行を計画し、新たなクラウドサービスとして、edを導入していることが評価できる。
【研究】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		平成28年度に設置したNEC共同研究部門(先進高性能計算機システムアーキテクチャ共同研究部門)と応用情報システム研究部門の連携により高性能計算/データ分析の研究開発を進めたこと、NECマイクロソフトとの共同研究で論文賞受賞に至る成果をあげていることなどが高く評価できる。
【社会貢献】	A	令和元年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性の高い取り組みとして、米国North Western University及び本センターについて、10Gbps広帯域ネットワーク上に、高速データ転送環境を構築し、日米間のデータ共有環境にむけた共同研究を推進し、本年度は当該環境での高速データ転送性能を評価・検証したことが高く評価できる。
【業務運営】	S	令和元年度計画の達成状況が優れている。
		スパコンの安定稼働、仮想デスクトップ環境、キャンパスクラウド環境の提供など学内重要インフラに関する業務運営の取り組みが高く評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員の論文数について、数値目標を達成し前年の実績から大きく向上していることが評価できる。 常勤研究者に占める女性研究者の割合について、数値目標を達成し前年度実績から向上していることが評価できる。
